



「最後に笑った男」

第3回麻雀史上最強戦観戦記

文/南波捲

「いや、とにかく伊藤さんが親でツモりまくってさあ。強かったな」銀玉親方・山崎一夫はそう語った。彼は予選の四回戦目にハコ下六五〇点と惨敗を喫し、トータルでも一位と実力から意外な成績に終わったのだ。

時運なく破れ去ったあとに残る心地よい疲労を感じたのか、ビルを片手にリラックスした山崎の目は、対局中とは別人のように穏やかなものになっていた。

「ツモりまくった伊藤」とは、もちろん「死神の優」こと伊藤優季である。三回戦を終了した時点で、彼は持ち点84・6ポイントの第七位。三位金子正輝に39・5ポイントの大差をつけられ、決勝進出には、並れて大きなトップを獲得するほかない状況だった。このメンバーを相手には至難の業だ。

しかし伊藤はそれをやってのけた。山崎と岩本光明をハコ下に沈め、これまで三回戦と波に乗つていた片山まさゆきを押さえ、大量89・4ポイントを叩き出したのだ。予選第三位。四位となった金子正輝との差は、わずか0・5ポイント、百点棒五本にすぎなかった。

そういえば去年の大会にも、伊藤と同様に四回戦の大爆発で一發逆転で決勝進出を果たした男がいた。

小島武夫第二期最強位である。

「おい片山。おまえはもうツップわかつてんだろうな」

D卓では長谷川がリードのうち

南場を迎える。二位の難とは微だい

声で胸喝(?)する。沈黙の中で摸打

が進む。うした大会でも、ゴジの味

れる声だけは時折会場に響き、その

回りに笑いの輪を広げてゆく。

しかし結局、片山の裏切り(?)の

トップどりにあって、長谷川は三回

戦を浮きの二着で終えた。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦を前に長谷川和彦が野太い

声で胸喝(?)する。沈黙の中で摸打

が進む。うした大会でも、ゴジの味

れる声だけは時折会場に響き、その

回りに笑いの輪を広げてゆく。

しかし結局、片山の裏切り(?)の

トップどりにあって、長谷川は三回

戦を浮きの二着で終えた。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦を前に長谷川和彦が野太い

声で胸喝(?)する。沈黙の中で摸打

が進む。うした大会でも、ゴジの味

れる声だけは時折会場に響き、その

回りに笑いの輪を広げてゆく。

しかし結局、片山の裏切り(?)の

トップどりにあって、長谷川は三回

戦を浮きの二着で終えた。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六位の長

谷川が激突するC卓と、ー1・2・3・5

ポイントの飯田正人とー1・6・5・ボ

イントの大鷹秀夫がぶつかるD卓で

の激闘に絞られた。いずれも、トッ

プをどちらいかぎり決勝進出はあ

えないのだ。

三回戦終了時で、三連勝の片山は

当確。残る決勝の椅子は、事実上二

席となっていた。

興味の焦点はー3・4・2・5・1

で第二位の難麻太郎と、ー1・2・4・1

ポイントで三位の金子、ー1・1・1

ントで逆転に執念を燃やす六